

新型コロナ対策

区議会公明党は、新型コロナウイルス感染症から区民の健康と暮らしを守るため、区長に対し12回にわたり緊急要望を行ってきました。新型コロナウイルスワクチン接種についても、集団接種会場を区内全域に設置することや区内医療機関100ヵ所以上となる個別接種会場の開設を要望し、区による対応がなされています。他の要望についても区による対応が進んでいます。



5月14日区長緊急要望

品川区ワクチンの供給量と接種人数の最新状況については品川区ホームページのワクチンメーターを参照下さい。



自宅療養者に パルスオキシメーター を配布

自宅療養者の容態急変を察知するパルスオキシメーター。変異株の感染拡大により、区内の自宅療養者も増加しています。自宅療養者全員にパルスオキシメーターを配布することができるよう、区では在庫を増やしています。また、不足がある場合には都から貸与してもらうことで対応します。



接種会場まで 移動が困難な方に タクシー利用の支援

接種会場までの移動が困難な高齢者（要介護・要支援認定を受けている方）や障がいのある方（身体障害の下肢・体幹・移動機能障害1～3級、視覚障害1～3級、内部障害1級、愛の手帳1・2度、精神障害者保険福祉手帳1級）にタクシーで利用できる区内共通商品券2000円分を7月30日より郵送しました。

【問合せ】0120-678-151
新型コロナワクチン接種
移動支援コールセンター



障がい者 サービス拠点での ワクチン接種体制

障がい児者の中には集団接種会場など慣れない環境でのワクチン接種が難しい方がいます。このような方々には普段から利用している慣れた施設での接種が必要です。医師による訪問接種を区内の通所施設で順次、開始しています。

【問合せ】
03-5742-6706
障害者福祉課



品川区手話 言語条例が成立

令和3年第2回定例会で品川区手話言語条例が全会一致で可決成立しました。

区議会公明党では、これまで手話を必要とする方の環境整備のため、遠隔手話サービスの区有施設への配備や手話言語条例制定に関する質問を議会で取り上げてきました。また、耳の聞こえない子、聞こえにくい子を手話と日本語で教育するため2008年に開設された明晴学園を視察するなど、条例制定に向け取り組んできました。

条例の目的

手話に対する理解の促進および普及のための基本理念を定め、区の責務ならびに区民および事業者の役割を明らかにすることにより、手話による意思疎通が図りやすい環境の整備を推進する。

基本理念

手話に対する理解の促進および普及は、手話は言語であるとの認識の下に、一人一人が尊重され、手話を必要とする者が安心して生活することができる地域社会を実現する目的で推進される。

東京2020オリンピック・パラリンピック大会 品川区応援3競技

東京2020オリンピック大会で世界のアスリートの活躍に感動が広がり、日本のメダル獲得に喜びが湧いています。8月24日からはパラリンピック大会も開幕。



品川区では、区内に競技会場があるホッケー・ビーチバレーと区の応援競技としてブラインドサッカーの3競技を応援してきました。大会開幕直前の7月21日(水)には、しながわ中央公園で聖火点火セレモニーが開催され、区の応援3競技の日本代表選手も躍動。コロナ禍で1年延期しての無観客開催となりましたが、平和の祭典に相応しく、たくさんの感動を与えてくれた各国のアスリートに拍手です。



品川区
ホッケー応援キャラクター

シナカモン

品川区
ビーチバレーボール応援キャラクター

ビーチュウ

品川区
ブラインドサッカー
応援キャラクター

やたたま

第2回定例会区議会公明党の一般質問から

新型コロナウイルスワクチン接種について

Q 重度の介護状態や重度心身障がい等の要配慮者のため、訪問接種や施設接種の早期実施を要望。又、要配慮者の同居家族も同時に接種するよう提案。

A 障がい者については、施設接種等、検討を進め、訪問診療の際、ご家族にも接種ができるよう、医師会と準備を進めている。

Q 子育て中の保護者が円滑に接種できるよう、子どもを安心して預けられる体制の整備を提案。

A オアシスルームは、コロナ禍で定員枠を減らしていることから、通常の枠内で考えている。在園児の保護者が保育を希望する場合は柔軟な対応をする。



コロナ禍での経済支援について

Q 都の月次支援金の上乗せや区独自の支援金の給付を要望。

A 区内経済団体の意見交換の中で現況を聞きながら、引き続き調査していく。

Q 国・都の協力金・支援金の申請支援について、相談から申請までワンストップで対応する行政書士などの専門家の活用支援事業を提案。

A 国や都の新たな支援制度の申請状況を見ながら検討していく。

介護者・ケアラー支援について

Q 公明党の推進によってまとめられた国のヤングケアラー支援策を踏まえて、自治体による現状把握や集いの場・SNS相談体制の整備、支援マニュアルの作成等、区としての支援策の構築を要望。

A 5月に出された国の報告書に基づき、特に子どもが主たる介護力になっている場合には、介護サービスの利用について十分配慮する。今後、国の報告書を受け、支援策を検討し、関係所管が連携して支援に当たっていく。

高齢者等のICT利活用支援の促進について

Q 都のスマホ利用の普及啓発事業を活用するなど、区におけるスマホ教室の充実を要望。

A 多くの高齢者が受講できるよう、区のスマホ教室を拡充。都の補助制度を周知し町会・自治会によるスマホ教室の開催を促進する。

育児支援について

Q 都の事業を活用したベビーシッターによる一時預かり利用支援の創設を提案。

A 先行導入している自治体の利用状況を注視しつつ検討を進めていく。



災害対策について

Q コロナ禍での避難所確保について、熊本地震でクローズアップされた車中泊やテント泊のための小中学校の校庭や防災広場、公園などの活用を提案。

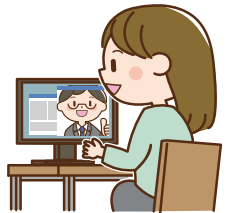
A 学校の校庭や防災広場などの活用について、災害時には医療救護所、物資集積所、災害廃棄物仮置場などとして活用することも考えており、避難スペースとしての活用については、被災状況などに応じて判断する。

Q 災害時に要配慮者を安全に移送するため介護タクシー事業者と災害時の輸送協定の締結を提案。

A 避難支援体制の強化のため介護タクシー事業者との災害時協定について検討する。

Q コロナ禍でも実施可能なオンライン等の新しい防災訓練の実施を提案。

A 幅広い年齢層の防災意識の啓発のためにも、オンライン形式の防災訓練等の実施について検討する。



視察報告「インクルーシブひろばベル」を視察

障がいの有無に関係なく、誰もが自由に遊びを楽しみながら多様な人と関わることができ、お互いに理解を深められることを目的にした「インクルーシブひろばベル」(戸越 6-16-14)がオープンし、8月4日に会派で視察しました。

この施設では、医療的ケアが必要な子どもの受け入れを可能としていて、施設面の配慮がなされ、看護師も1名配置しています。障がいのあるなしに関わらず一緒に遊ぶことができ、保護者同士の交流も活発にすることで保護者の孤立を防ぐことにもなります。また、専門スタッフによる育児に関する相談もでき、利用は全て無料です。このような施設は全国的にも珍しく、医療的ケアを必要とする子どもの新たな支援拠点となる大切な施設です。【問合せ】☎03-6421-5785 FAX03-6421-5786 インクルーシブひろばベル



～区政に関する意見交換を実施～

7月15日(木)から、区内の各種団体と区政に関する意見交換や要望をお聞きする懇談会を実施しました。昨年同様、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、書面やオンライン開催も含めてご意見・ご要望をお受けするなど、感染対策に十分な注意をして実施致しました。

各種団体からお聞きしたご意見・ご要望は、議会質問や予算要望等を通じて、よりよい区政へと活かしてまいります。



公明党の区議会議員



若林 ひろき



たけうち 忍



こんの 孝子



塚本 よしひろ



あくつ 広王



つる 伸一郎



新妻 さえ子

皆さまの声をお聞かせください。お気軽に、ご意見・ご要望をお寄せください。

電話 03(5742)6817

FAX 03(3774)3366

Eメール info@shinagawa-komei.org